

令和元年調査結果に対する委員からの主な意見

参考資料

項目	主な意見	担当課からの回答	担当課
はしる	<p>・「路地からの飛び出し」による事故が 50%を超えているため、対策が最も必要ではないか。クルマからの自転車の見え方を映像で見せる機会を設け、客観的に自分を見ることができれば、危険な飛び出しの防止に繋がるのではないか。</p>	<p>・交通安全教育において、クルマから自転車の見え方や死角になる場所などについても周知することを検討してまいりたい。</p>	生活安全 交通課
	<p>・「道路が整備されていない」「道路が狭い」ことから、自転車で走りづらさを感じている人が多い。自転車が車道のどこを走行して良いのか分かりづらいことも問題である。車、自転車、歩行者の3者を分かりやすく分離した道路整備を進めていくことが必要なのではないか。</p>	<p>・車、自転車、歩行者が安全で快適に通行できるように、道路の新設や拡幅、歩道設置等の整備を推進するとともに、新設道路においては自転車通行帯の設置を検討してまいりたい。</p>	道路整備 課
	<p>・大山、八尾地域にある高校（中央農業、八尾等）は調査対象にしなくてもよいのか。この自転車利用環境整備は旧富山市だけの計画に感じられる。</p>	<p>・富山市内の自転車事故は、約9割が富山地域（旧富山市）に集中しており、さらに昨年度の調査範囲には、その半数の事故が集中していることから、重点的に自転車走行空間整備を推進していきたいと考えております。</p> <p>・旧町村地域においては、新設道路における自転車通行帯の設置や富山市立地適正化計画における居住誘導区域内において、鉄道駅周辺で自転車が通行する主要路線において、自転車走行空間の整備を検討してまいりたい。</p>	生活安全 交通課
	<p>・車の運転免許返納が大きな課題となっている中、もっと気軽に自転車に乗れたらいいのにと思います。そのために、自転車専用道路の整備が待たれます。現在の自転車は、ほとんどが歩道を走っており、歩行者が歩道を歩く時、横並びでは歩けない状況です。子供も年配者も安心して自転車を乗りこなせる環境整備をお願いしたい。</p>	<p>・歩行者が安全に歩道を歩くことができ、誰もが安心して自転車に乗ることができるように、歩くライフスタイルとの連携を踏まえた施策について、次期計画策定の中で検討してまいりたい。</p>	生活安全 交通課

項目	主な意見	担当課からの回答	担当課
とめる	<ul style="list-style-type: none"> ・お店の前に2～3台の駐輪スペースをつくることで、自転車で行こうという人が増えると考えられる。富山の商店街などは自転車がとめにくい印象がある。駐輪環境整備は、市民による利用と自転車観光の両面の促進に、効果的と考えられるので、本計画で力を入れていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市では、「歩くライフスタイル戦略」に基づき、まちなかにおいて行動変容を促す施策を進めており、自転車利用との両立を図るため、まちなかにおいて小規模な駐輪スペースを設ける予定はありません。 	生活安全交通課
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、ますます富山駅北口の利用者の増加が見込まれることから、北口の東側に駐輪場を整備してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富山駅北口においては、富山駅北口駅前広場整備にあわせた駐輪場整備を行うこととしております。なお、地鉄高架後には、その高架下を駐輪場として活用させていただくよう、地鉄に要望しております。 	生活安全交通課
	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の民間施設の駐輪場や公共施設の駐輪場を、公共交通の駐輪場として活用するなどの連携が図れないか。また、義務化を検討されている自転車保険とのセットで条例化できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の駐輪場を公共交通の駐輪場として活用することは、第一義的には公共施設管理者の意向や駐輪需要を踏まえて検討されるべきものであると考えております。 ・自転車保険の加入義務化については、市議会で条例提案を予定されているところであります。市としては自転車保険の加入について、県条例で努力義務とされていることから、その周知に努めているところであります。 	生活安全交通課
いかす	<ul style="list-style-type: none"> ・久婦須川ダム周辺には、化石資料館や桐谷集落の住民の手により「ガット出の水」も整備され、よきサイクリングコースであることから広報をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・久婦須川ダムの周辺は景観もよく、既存の道路において、十分にサイクリングを楽しむことができるとともに、マウンテンバイクコースが整備されていることから周知に努めてまいりたいと考えております。 	生活安全交通課
	<ul style="list-style-type: none"> ・『自転車で出かける＝プラスイメージ』ということのPRを強化してはどうか。例えば、“富山の素敵な景色を背景に自転車に乗る人”や“晴れた青空をバックに風を気持ち良く感じながら自転車に乗る人”のポスターやCMを製作するなどの、キャンペーンを行ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の利用は主に下半身の筋力を使う有酸素運動になることから、ダイエットやメタボ対策になり、風を切って走る爽快感によるストレス解消など、心と体の健康増進に大きな効果があるものと考えております。そうしたことを踏まえ次期計画策定にどのような施策を盛り込むか委員の皆様との議論を踏まえ検討してまいりたい。 	生活安全交通課

項目	主な意見	担当課からの回答	担当課
	<ul style="list-style-type: none"> ・アヴィレを利用したことがない人が 98%となっており、利用率がとても低い。利用しない理由のひとつに「使い方が分からないため」ともある。力を入れてPRしなければ、今後の利用者数も変わらないため、「促進」若しくは「廃止」のどちらかを判断し対策を考えるべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも広報や各種イベントなどを通じて、アヴィレの利用促進を図っていましたが、今後もイベントなどでの試乗体験会や利用方法を掲載したリーフレットを通じて利用者を増やしてまいりたい。 	環境政策課
	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングイベントの認知度が低い。富山では、休日に子供連れで出かける家族が多いため、まずは子供向けのサイクリングイベントやサイクリング教室を実施し、自転車に乗ることが楽しいと思ってもらえるようにするなど、家族で自転車に関わる機会を持つことによって、より身近に自転車を感じてもらえるようになるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市公営競技場事務所では、親子を対象とした補助輪卒業教室を開催しております。また、県交通公園においてもこうしたイベントについては積極的に周知してまいりたい。 	生活安全交通課
	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県は、自家用車保有率が高く目的地までは自家用車を使用する方が多いと考えられるため、市民意識啓発事業としてモビリティマネジメントを行い、過度に自動車に依存するライフスタイルから、公共交通や自転車などを積極的に利用するライフスタイルへの転換を促すなど、自発的にライフスタイルを変化させる取組みが必要であると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりが、過度に自動車に依存した行動を見つめ直すなど、自発的に交通行動の転換を促すモビリティマネジメントを「とやまルールライフ・プロジェクト」を推進し、公共交通に対する市民意識の高揚と公共交通利用促進に取り組んでいます。 具体的には、テレビ・ラジオ等メディアを活用した啓発活動や大学生への講義、小学校3～6年生が社会科や総合的な学習時間にまちづくりや公共交通を学ぶ「富山市のりもの語り教育」を実施しており、今後も引き続き実施してまいりたい。 	交通政策課
	<ul style="list-style-type: none"> ・観光への自転車活用の面では、軌道線と重なるアヴィレのステーションを整備するのではなく、電停から郊外への移動に対応できるよう、ステーション整備を進めていただきたい。 ・ICTを活用したMaas推進の取り組みとして、アヴィレと軌道線を1つの連続した移動サービスとして、観光需要にも対応させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステーションの整備及びICTを活用したMaas推進の取り組みの検討については、運営事業者であるシクロシティ(株)に、本意見を伝えてまいりたい。 	環境政策課

項目	主な意見	担当課からの回答	担当課
	<ul style="list-style-type: none"> ・75歳以上の半数以上が自転車を利用しており、運転免許を返納し、自転車利用をはじめた人がいることもわかる。自動車とともに自転車においても高齢者の運転には留意すべきことが多いと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車は運転免許返納後の高齢者の移動手段の一つとなるものです。高齢者の安全な自転車利用を促し、高齢者が安全で快適に自転車を利用できる環境整備を進めることが必要であり、そうした観点からも委員の皆様の議論を踏まえ次期計画策定の中で検討してまいりたい。 	生活安全交通課
	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果から、アヴィレの周知方法や活用についてなんらかの対策が必要である。どのような使い方をしているのかを分析し、重点施策へ展開してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も広報やイベントなどでの試乗体験会を通じて利用者への周知を図ってまいりたい。 	環境政策課
	<ul style="list-style-type: none"> ・県が取り組む広域的な事業と相乗効果が図られ、サイクリストに魅力ある環境整備が進み、自転車の活用促進が図られるよう、連携して取り組みを進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県、サイクリング協会との具体的な連携方法については、委員の皆様の議論を踏まえ次期計画策定の中で検討してまいりたい。 	生活安全交通課
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車を都市における交通手段の一つとして位置づけることが必要ではないか（具体的には、800m以上5km弱以内は自転車を最優先とするなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そうした観点からも、自転車利用を推進する必要があると考えており、委員の皆様の議論を踏まえ次期計画策定の中で検討してまいりたい。 	生活安全交通課
	<ul style="list-style-type: none"> ・個人、企業等に対して、自転車利用のメリットを取り上げることも必要ではないか。 ・利用面において用途別の施策が必要ではないか。 ハード面…通勤者の利用を想定したネットワークの形成 ソフト面…一過性の自転車通勤デーなどのイベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進や環境負荷の低減、自転車通勤による業務効率の向上など、多様な主体に対する自転車のメリットを周知してまいりたいと考えております。また、ハード面、ソフト面の両面で自転車利用環境の向上に向けた施策について、委員の皆様の議論を踏まえて次期計画策定の中で検討してまいりたい。 	生活安全交通課
	<ul style="list-style-type: none"> ・「はしる」「とめる」「いかす」「まもる」の施策において、数値目標の設定があっても良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画における目標指標は、今後自転車施策を推進し、フォローアップを行う上で重要であるため、具体的な指標設定も検討してまいりたい。 	生活安全交通課